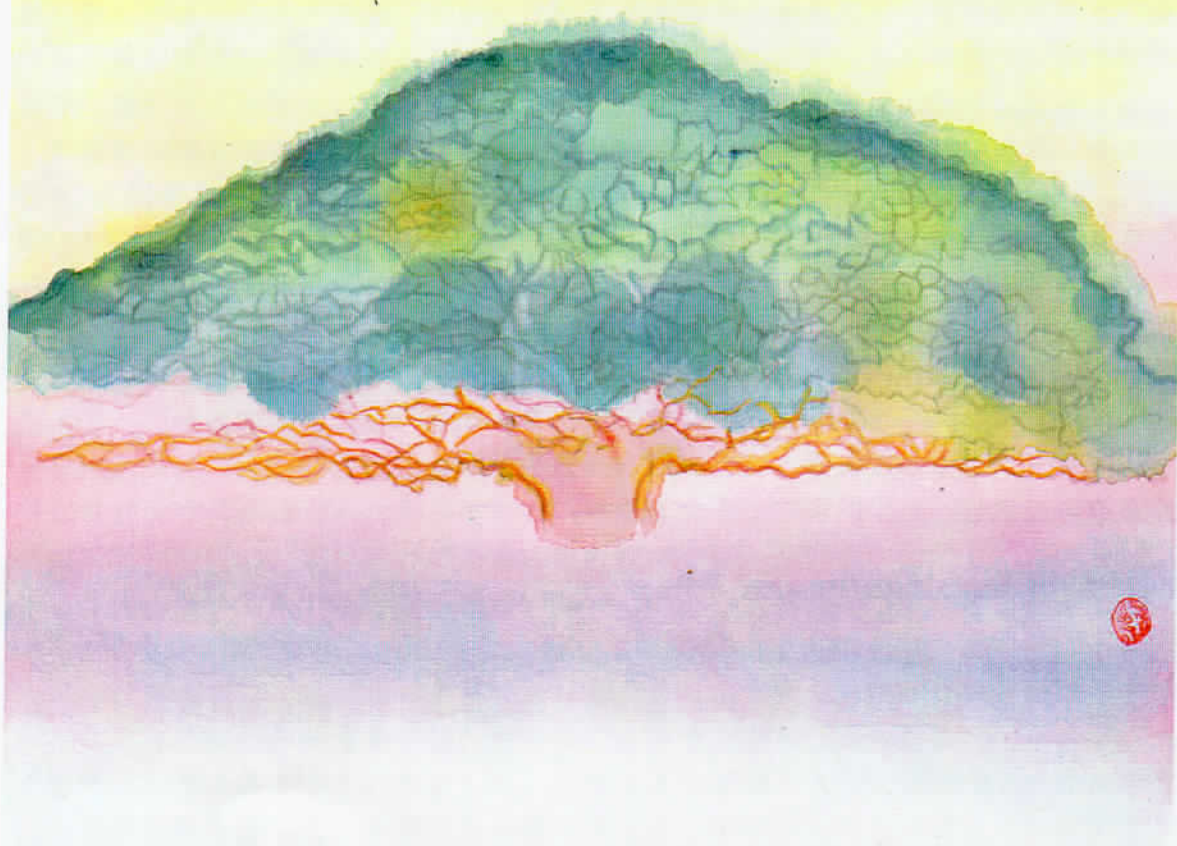
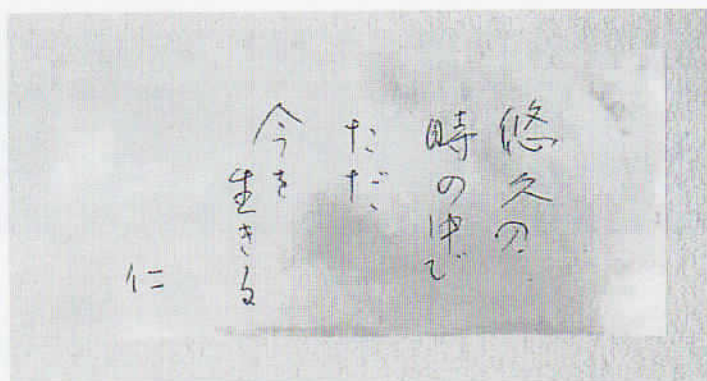


里山の風景

新
風吹
か
す
ま
な
が
集
ま
る
木
元
は

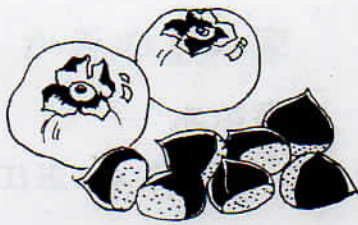




もくじ

表紙 絵・題字	山本 仁恵	1
もくじ 表紙の言の葉	山本 仁恵	2
年頭エッセー	近藤 こよ美	3
特集1 香美の木の家づくり		4-6
山ありて人あり 人ありて山ある	八木 正江	4
かみの木の家	小松 秀行	5-6
めぐ便り	石川 (佐々木) めぐみ	7
特集2 里山リノベーション		8-11
古民家再生 — スローライフの家 竣工 —	野口 政司・路万	8-10
里山の家に住まいして 「庭を通過して隣家へ」	津嘉山 郁子	11
こちよい風景 9 — 理想郷『源氏物語』六条院 —	河野 真理	12-13
里山セミナー報告 「南海プレート巨大地震に備えて」	吉田 民子	14
	新田 智恵美	14
活動報告・行事予定・入会のご案内	近藤 こよ美	15
紅葉山だより	石原 禮子	16
あとがき	永田 公子	16

(カット) 石川 (佐々木) めぐみ



年頭エッセー

NPO 法人 里山の風景をつくる会 代表理事
近藤 こよ美

明けましておめでとうございます。

穏やかな正月をお迎えのことと存じます。

昨年は活動へのご協力をいただきありがとうございました。おかげさまで、自然の恵みを持続して暮らしに生かし、自然と共にある社会を実現していくための取り組みを進めていくことができました。

昨年11月、香美森林組合が高知で家づくり勉強会を開催しました。香美森林組合は清流の源が森林から溢れる豊かな森づくりを目指し、高知県香美市周辺31,000haの森林管理を行っている森林組合です。「伐り出すことに専念してきた組合が先人の育てた木々を使っていただく工夫と努力」をしていくために「初めて県内外の買い手さんと顔を合わせる」家づくり勉強会に、たくさんの森づくり・家づくりに携わる人や住まい手が集い、有意義な交流をすることが出来ました。

野島常稔森林組合長には2つのモットーがあるそうです。一つは組合員（森林所有者）に信頼される組織となること。二つ目は少しでも山（組合員）に還元すること。「人づくり」「道づくり」に力を入れることで、流域林業の担い手として、また山の守り手として森林組合の大切な役割を担っています。

私たちが初めて香美の森を訪れたのは今から3年前のこと、手入れの行き届いた檜の森は下草が大きく茂りなんとも美しい森でした。広く作業しやすい林道、林業先進国への視察等を重ね広い視野を持つ組合員のお話に林業の発展の可能性を感じました。以後、里山の活動に賛同する設計事務所による香美の木を使った家が高松で2軒完成し、高知でも計画が進んでいます。今年は吉野川上流域に位置する香美の森ツアーを行い、森林組合の皆さんとの交流や豊かな森の中での自然観察を通して、香美の木が下流で家となる循環の輪づくりに取り組む計画を進めています。

田んぼ探検隊は、私たちスタッフが日本自然保護協会の自然観察指導員講習を受けるなど自然観察の意義を学び、大切なことをきちんと伝えられるフィールドワークをめざして活動してまいりました。今年もさまざまな人達と連携し、田んぼや里山の自然観察を通して、自然は命の源であることを子どもたちに伝える環境教育や観察会の担い手を育てる人材育成を展開していきたいと考えています。

今年も里山の風景をつくる会へのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

山ありて人あり 人ありて山ある

「家づくり勉強会 with マリオネット」報告

八木 正江



高知県香南市、のいちふれあいセンター。会場はあふれるばかりにいっぱいの人でした。軽やかな中にも深く深く、哀愁に満ちた音色が会場を埋めた人たちの心に響いていきました。ポルトガルギターとマンドリンの演奏。演奏者はマリオネットの2人組。その音色にふさわしい映像と語りも加わり、一同うっとり演奏に酔いしれました。

本論が始まりました。熱心に耳傾ける人たち、題して「家づくり勉強会」。森の人たち、山の人たち、まちの人たち一同が会し、何かが始まるぞ、期待に胸が弾みます。

いつの時にも、ものの始まりにはドラマがあります。年月を重ねれば重ねるほど、そのドラマは厚みを増してふかふかと豊かになります。私たちNPO里山の風景をつくる会は、「まちに森をつくる」、という命題を設立以来持ち続け、その実現に向けて日々を歩いてきました。

一方山には、戦後に植林した杉（やひのき）が、今や切り旬を迎え、切り出されて家に生まれ変わるその日を今か今かと待っています。

どうするって？そうです、吉野川源流域の木を使って家を建てるのです。森の木々の命を頂いて、私たちの命を育む木の家を建てるのですよ。今日はその仕掛けを再び構築する記念すべき日なのでした。

ここ数年、山とまちがつながるための、次なる戦略を練ってきましたが、今日ここに、その新しい縁組が成りました。私たちが嶺北の森とつながってきた10数年、計り知れない努力があり、その努力は今新しい担い手の方々に見事に受け継がれていくのです。

ご紹介しましょう。高知県香美市の香美森林組合の方たちと彼らが育てる香美の山の木です。香美は神に通じるとの名言さながら、再び森とまちをつなぐ絆のありがたさを思いました。香美森林組合は、吉野川源流域と物部川源流域にまたがった広い地域をカバーしており、その上流部は杉やヒノキの一大産地です。

野島組合長はじめ森林組合の方々と同席し、森づくり家づくり人づくり、これまでも増しての絆にしたいと思いました。

この香美、神の木を使って建てられた2軒の家が紹介されました。いずれも場所は香川県高松市ですが、過日その見学会も行われ、すばらしさを堪能しました。

今回の「里山の家」誕生のドラマは、必ずや私たちに未来永劫の幸せを運ぶと確信しています。

かみの木の家

— 木が香り、光と風が心地よい先進のゼロ・エネ住宅 —

建築家 小松 秀行 (里山かがわ)



柱梁をあらわした2階リビングダイニング

高知県の香美森林組合から提供された良質な木材を、九ヶ月間天日乾燥し、伝統的な構法を生かした「木組み」と最新の省エネ・高断熱技術を融合させた「ゼロ・エネ住宅」が高松市に完成しました。

黒い焼杉板の外壁に木のストライプが美しい建物の中に入ると、1階は夫婦と子ども達の個室。家族が集うLDKは冬の日差しと暖かさを取り入れるために2階に設けています。小さな住まいですが天井が無く開放感たっぷり。狭さを感じさせない室内の床はヒノキとスギの無垢板、壁にも木や和紙などの自然素材をふんだんに使っていて、木の香り漂う室内空間はシックハウスとは無縁の気持ち良さです。



西側外観



物干場を兼ねたベランダ

1階から吹抜を通り2階の天窗まで風が抜ける通風と、日差しを調節する深い軒や樹脂窓、高性能硝子の効果で31畳の2階全体が6畳用エアコン1台で空調可能。最小の光熱費で冬寒くない家を実現しています。さらに、国の補助金175万円の活用や実家の古建具の再利用、建て主のセルフビルドの塗装などコストダウンのヒントも満載です。

打合せを重ねる中で家族の想いを深く汲み取り、新しい発想をくわえながら丁寧に形づくる設計力。長く安心して住める耐久性や暮らしやすさにこだわったしつらえ。高い要求に応える職人の技術力により心から満足していただける先進の住まいとなっています。



梁組みが室内のアクセント



古い建具をつかった寝室



古い建具をつかった食器棚



エントランス夜景

石川（佐々木）めぐみ

みなさまお元気ですか？
今回も家づくり報告のつづ
きです。

最近の家って、建ちはじ
めたと思ったらもう住んで
いる、というくらいすぐ建
ちますね。土壁づくりのわ
が家は半年以上かけてゆっ
くりできていきます。



夫も建築関係の仕事をしているので、設計士さんとの打ち合わせの時もそうでしたし（一人めの設計士さんとは合わず、別の方に代わっていただいたところ感覚が合い、充実した打ち合わせとなりました）、大工さんの仕事や使っている材料も厳しくチェックするため、手直しが入ることで時間がかかったものもあります。まったく素人の施主であればスルーしている部分でしょう。夫がどんな仕事をしているのかを垣間見る機会ともなりました。

「あんな悪い（木）材を使うなんて！（怒）でも市場にいいのが出てないからしょうがない」と言うのを聞くと、日本の山の課題を見るようで、簡単な問題じゃないなと思います。

土壁も、需要が少ないために若い職人が育たず、うちに来てくれた荒壁職人さんは3人のベテランおじいちゃん。平均年齢75歳で、なんと名古屋城の本丸御殿復元工事でも活躍されたと聞いてビックリ！

大工さん、瓦屋さん、電気屋さん…と、うち一軒の建設にこんなにも多くの方々が携わり技を注いでくださっていると知ると、とてもありがたいです。まだ出来上がるのは先ですが、この家を大事に長く、手入れも楽しんで気持ちよく住みたいと願っています。



石川（佐々木）めぐみさん

もと会報編集担当理事。「めぐ巡り」連載
とイラストを担当。2014年に愛知へ嫁ぎ、
ただいま2歳の息子と子育て親育ち中。



5年間にわたって取り組んできた淡路島の古民家再生プロジェクトがこのたび完成しました。大きな長屋門と桜のある古民家を、残せる部分は残しつつ、現代風にリノベーションするのが今回のテーマでした。

1期工事は立派な長屋門を改修して住めるようにし、建主さんには母屋の2期工事の間はそこに住んでいたくようにするプランで進めました。



立派な長屋門の向こうに母屋が見える



桜が満開の敷地全景。中央が母屋、右が長屋門、手前が玉ねぎ小屋。奥の山も敷地に含まれる。



改修後の長屋門

調理もできる薪ストーブと薪で沸かす手作り浴室。スローライフをしたいというご家族の思いを形にしました。



母屋の改修で中心になったのはリビングダイニングと浴室です。薪ストーブは家の中心に配置することで熱が効率よく家全体に伝わるようにして、角度もテーブルの方に向けて設置することで火を楽しみながら団らんできるようにしています。浴槽は太陽熱温水器で貯湯し、追い炊きは直接薪で沸かすようになっていて、一度お湯を温めるとホーローの浴槽自体が温まるので冷めにくく、また体全体が温まるとも快適なお風呂です。天窗を付けているので、夜はライトアップした桜を見ながらの入浴ができます。どちらも燃料の薪は裏山で取れるため、余分なエネルギーを使わないエコロジーな生活が可能です。

桜を見上げながらお風呂に入るのは最高です



寝室や洗面室から庭が眺められるように窓の形を工夫しました。



改修前



リビングダイニング



階段周り



長屋門 屋根裏

改修部分は、キッチンの天井や長屋門の昔から残る構造体をダイナミックに見せるようにしました。また、階段は改修前は急勾配で少し圧迫感のあるものだったので、勾配を緩くするのに加えて背板を無くしたスマートなデザインとすることで、周りの空間と一体感のある広がりのあるスペースとなりました。

改修後



母屋 2階

里山の家に住まいして

「庭を歩いて隣家へ」

津嘉山 郁子

「おじいちゃん、おばあちゃん行ってもいいですか?」、「はい、いいですよ」庭を隔てた隣家に住む3才の孫娘が、網戸越しに毎朝送ってくる挨拶に応えたものです。1才の弟もそれらしき言葉を送ってくる。物干し用の低い木製ベランダから大人用のツッカケをはき、いまならバラに撒きついた赤い小さなルコウソウと葉が紅葉したケイトウ、トレニアの咲く庭を横切ってくる。どの花も孫の年よりはるかはるか以前より、こぼれ種から芽生え今につながってきたものです。

自宅の南側に以前教室として使っていた平屋造りの家があったのですが、それを増改築し住みたいという息子家族の意志で、この状況が実現しました。杉板を張った外壁は目にもやさしい。植えて30年になる大きなブルーベリーの葉が赤く紅葉したところに引っ越してきて、春に白い花を見、夏にたわわになった実を収穫し、また葉が色づき始め、ああやがて1年経つのだと気付きました。

いろんなことに感謝しつつ暮らしています。まずは、この土地を私たちにつないでくださったご先祖さまに。3世代が助け合える距離にしながら、精神的には負担をかけずに住めることに。



「みんなと一緒に食べると美味しいね。」の孫の言葉通り、昼食や週末の食卓はあり合わせの料理を持ち寄って賑やかにいただき、孫と料理することも増えている。

以前からあった庭が中庭になり、その効用はおおきいものだと感じている。

二つの家の間のレースのカーテン的役目をし、メジロ、ヒヨドリ、大きなクモの巣、アマガエル、セミと、目にする生き物の数も多い。数日まえからラッキーと呼ぶジョウビタキが帰ってきた。また楕円状の飛び石を通路に敷いているが、1才の孫の歩行訓練になっている。先日は、3才の孫娘に「おばあちゃんお茶にしますから座ってください。」といわれ、座布団のような石に正座し、周りに敷き詰めた小石の茶菓子を美味しくいただきました。中庭や近所に残る自然の中で、折々の現象をいっしょに観察し触れ感動する彼らは私たちの刺激になっている。孫の成長と共に、爺、婆の役目も変化するのでしょうか、それを楽しみたいと思っています。

いまの住環境で暮らすなかで何か書いてと言われましたが、取り立ててマイナス面は上がってこないですね。隣家に明かりが灯ると、無垢の材の格子状玄関がぼっと火照ったようで、これまた幸せな気持ちになる。

「おじいちゃん、おばあちゃん お休みなさい。」カーテン越しに孫たちの挨拶を聞きながら、きょうも無事に終わることができました。

～ 理想郷『源氏物語』六条院 ～

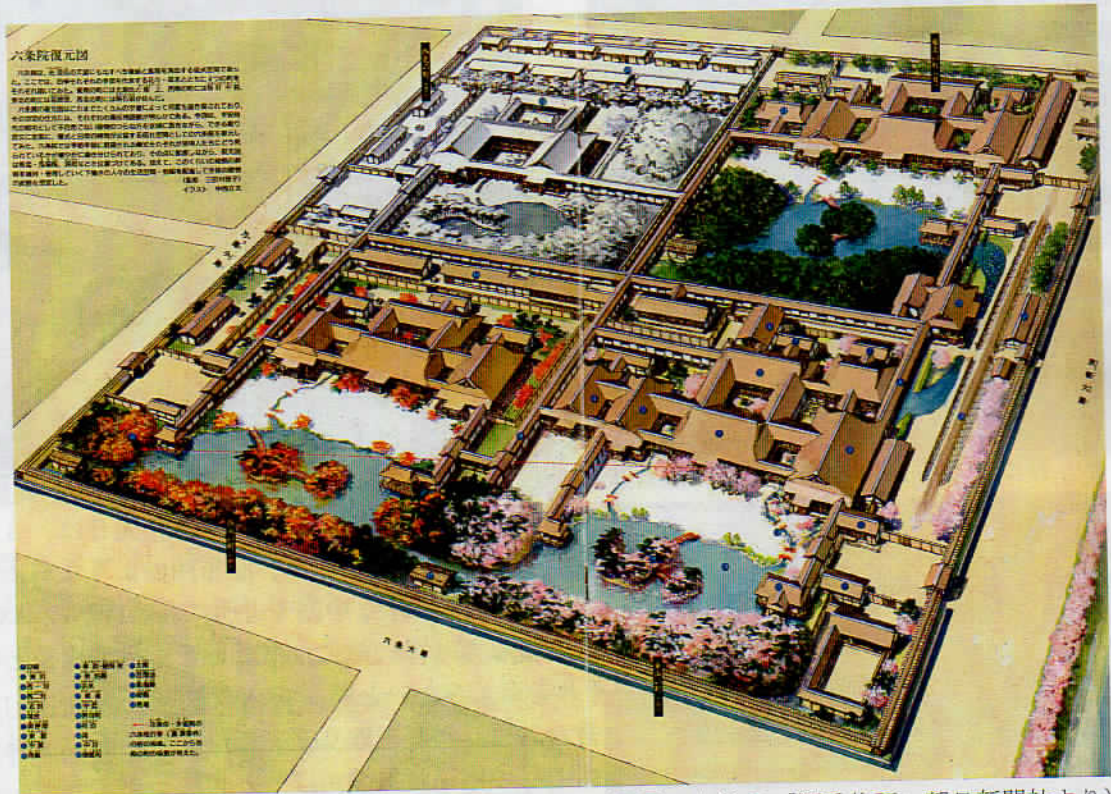
河野 真理

年初美しい風景に干支の「酉」をとり入れようとする、まず宇治平等院鳳凰堂である。あまりにも有名な十円玉のデザイン。鳳凰が羽を広げたような翼楼、後方に尾楼がつく。平面図からして、南池より飛び立たんとする鳳凰である。(本来本堂の大屋根にすくっと立つ鳳凰によってこの寺は鳳凰堂と名づく)

さて、平等院からその南池・寝殿と連想して、更に空想の風景を記すでしょう。

『源氏物語』には、光源氏が太政大臣になって権勢を極めると、邸宅・別業(別荘)・寺を造営するのである。その最たるものが六条院である。

普通は一辺一町(約120m)の区画なのだが、春夏秋冬と四つの区画が一つになった、つまり六条院は方二町(240m)の大邸宅なのである。



六条院復元図 (世界の文学 24「源氏物語」朝日新聞社より)

南東を春の趣とし、源氏と紫の上・明石姫君が住み

御前近き前栽（前庭）、五葉、紅梅、桜、藤、山吹、岩つつじ

など春の花の木を多く植えてある。この物語の女主人公紫の上は、いつも樺桜・桜をイメージして描かれる。

南西には、本来の六条御息所（ろくじょうのみやすんどころ）邸がある。その一人娘で、源氏の養女として冷泉帝の皇后となった、女君が官中から里帰りする所「里第（さとだい）」として存在する。

「春秋論」を争った時「秋を好む」として秋好中宮（あきこのむのちゅうぐう）と称される。当然、庭には紅葉する木々、主に楓を多く植え、庭の奥から滝を落として、秋の野原の草のそよぐ風景を愛でるのである。

北東の女主人、花散里の住む夏の邸は、涼しそうな遣水（やりみず）・泉水・常緑の木々・卯の花垣・端午の節句の競馬（くらべうま）や騎射を見るための、馬場を東に備える。

北西は、明石の君の住む冬の邸である。冬の雪景色を観賞する趣と、その女君のイメージは松である。「松風に琴の調べは競らむ」と、源氏との別れの場に琴を弾く女君は、常盤木の王・松であり、以降栄えていくのである。

この六条院完成で、初めて迎える正月の様子を語るのが、「初音」の巻である。

年たちかへる朝の空のけしき、なごりなく曇らぬうららけさには、数ならぬ垣根の内だに、
雪間の草若やかに色づきはじめ、いつしかと気色だつ霞に木の芽もうちけぶり、
おのづから人の心ものびらかにぞ見ゆるぞかし

天の象・地の趣・人の和と「天・地・人」が穏やかに、源氏の治世の安泰を語る。そして、源氏は各々女君に似合った衣を配るのである。

源氏世界の一つの頂点となる絵空事。現実世界があまりにも悩ましいので、つい幻の美しく心地よい風景を記してしまった。

里山セミナー

「南海プレート巨大地震に備えて — 『東京防災』を読む — 」

去る10月15日(土)、ビオスホールにて里山セミナーを開催し、30名の参加者がありました。

4月に起こった熊本地震、10月に起こった鳥取地震、他にもあちこちで頻繁に起きている地震に不安を覚えます。いつ起こるともわからない災害に備えて、今私たちができることは何なのか?を、『東京防災』の本を基に学び考えてみました。

<参加者の声>

セミナーに参加して以降、徳島でも震度3の地震を2回も体験しました。また、福島での地震は、あの頃を思い出させてくれました。

次は、南海地震だと、改めて今できることをしています。寝ている部屋の頭の向きを変えたり、お風呂のお湯を溜めるようにしたりしています。また、乾物等をいつも補充するようになりました。

まだまだこれからですが、その日に備えて準備の大切さを再認識させられました。

(吉田 民子)



セミナーに参加して一週間も経たず鳥取で大きな地震があり、その後もあちこちで地震が起きています。いつ身近に大地震が起きても不思議でない状況にとっても不安な毎日です。

今回、『東京防災』の本を基に、普段から防災や減災についての意識を高め、災害に備える為の心得や被災した時の身近な素材の活用法を学ぶことができました。日頃の私は、停電に備えて懐中電灯を三か所に置いている程度の防災意識の低さで、食料品の備蓄や非常用持ち出し袋など準備していないことを反省させられました。

今回のセミナーで新聞紙やペットボトルの利用法が多いことを知り、たまるとすぐにゴミに出していたのを改め、少しはストックすることにしました。また、地震の時の避難方法や安否確認について、乳児を抱え離れて住む息子たち家族と話し合うことにしました。ただ心配するだけでなく、先延ばしにしないで家族で話し合わなければいけないと強く感じました。

やがては来るであろう巨大地震。それは明日かも、いや今日かもしれないから、次は自分が被災するかもしれないと意識することが重要だと感じました。

みなさんも一度『東京防災』を読んでみてください、災害に対する心得や発生時に役立つ知恵や工夫がわかりやすく書かれていますから。

(新田 智恵美)

活動報告

- 8月 9日(火) 第2回理事会
8月10日(水) 生物多様性普及推進協議会準備会
8月10日(水) 会報45号発行
8月28日(日) 田んぼ探検隊「稲刈りをしよう」
9月 9日(金) 第3回理事会
9月12日(月) 里山の風便り9月号 発行
9月21日(水) ラムネット登録に向けた会議1:30活動プラザ2F
10月 2日(日) 田んぼ探検隊「田んぼの収穫祭」10:00田浦コモン
10月11日(土) 第4回理事会
10月15日(土) 里山セミナー「『東京防災』を読む」 ビオスホール
10月15日(火) 吉野川ラムサール登録に向けた会議 県民プラザ
10月24日(月) 里山の風便り10月号発行
11月 6日(日) 家づくり勉強会 with マリオネット 高知県香南市
11月 8日(火) 第5回理事会
11月10日(木) 吉野川ラムサール登録に向けた会議 福祉センター
11月19日(土) 里山セミナー「古民家再生から耐震リフォームまで」 ビオスホール
11月19～23日(土～水) 「かみの木の家」完成見学会 10:00～17:00 香川県高松市
12月 1日(木) 吉野川ラムサール登録に向けた会議 福祉センター
12月 6日(火) 第6回理事会

行事予定

- 1月 1日(日) 会報46号発行
1月10日(火) 第7回理事会
1月16日(月) 里山の風便り1月 発行
1月24日(火) 日垂ふるさと振興財団公募女性贈呈式
5月頃 香美の森ツアー(予定)

会費納入のお願い

2016年度会費をまだ納入されていない方は、同封の振込用紙で入金していただきますよう、よろしくお願いいたします。

入会のご案内

入会された方には会報をお送りします。イベントなどの情報も随時お知らせします。

- ・正会員 会の運営に参加してくださる方
- ・賛助会員 会の運営に賛同し会費により応援してくださる方
- ・年会費 (個人) 1口 3,000円 (団体・法人) 1口 10,000円
- ・振込先 郵便振替 016001-32810 口座名 里山の風景をつくる会



ヤマボウシの花



ヤマボウシの実



マユミの花



マユミの実

我が家の裏庭に紅葉の木がある。
 その下から地蔵が生えてきて、以前少し出荷していた。
 その蔭の葉の上にいっぱい紅葉の花が零れ落ち、
 井戸水で洗い流すのが大変だった。
 やがて竹とんぼの様な実をつけた。この実はいつ飛んでいくんだろう？
 たんぼの綿毛を思って、いまにも飛び出すか？と何回も見に行った。
 その内忘れてしまって、冬枯れの季節になり、あれ？いつの間に？
 そして、今年やっと見つけた。
 種が紅葉の落ち葉の隣にひっそり落ちているのを。
 春から今まで長い時間をかけて、育てていたんだ。

春の野に すみれ摘みにと 来し我そ
 野をなつかしみ 一夜寝にける 山部赤人

南淵の 細川山に 立つ檀 (まゆみ)
 弓束巻くまで 人に知らえじ 作者不詳



イロハカエデ (楓) の花



カエデの種



カエデの種



スミレの花



あとがき



今年もまた、新町川に冬鳥のユリカモメがやって来た。
 青空に舞う、白く光り輝く美しい姿に
 今年いち年の夢と希望を重ね合わせる。
 飛躍の年になりますように・・・と。
 いえいえ、飛び過ぎは禁物！ほどほどに。
 穏やかないち年になりますように。

(ながた)

2017年1月1日発行

特定非営利活動法人 里山の風景をつくる会

〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示 28-53 TEL 088-655-1616 / FAX 088-655-1632

E-Mail : info@enjoy-satoyama.jp URL : <http://www.enjoy-satoyama.jp>